教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒
明るく思いやりのある生徒
健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」

翼成

第　１１　号
平成３０年　９月１３日発行
須賀川市立第二中学校
☎７５－２９１０
発行責任者：校長　高崎則行

合唱部心に届く演奏を実現 ２つのコンクールで東北大会進出

ＴＢＣ・ＴＵＦこども音楽コンクールより

本校合唱部は、これまで３種類のコンクールに出場しました。一つは、ＴＢＣ・ＴＵＦこども音楽コンクール、他の二つはＮＨＫ全国音楽コンクールにつながる岩瀬支部小中学校音楽祭第一部（合唱）と合唱連盟主催の福島県合唱コンクールです。

８月１８日(土)、福島市文化センターで行われたＴＢＣ・ＴＵＦこども音楽コンクールでは、優秀賞を獲得し、早々と東北大会出場を決めました。次いで８月２２日（水）に須賀川市文化センターで行われた岩瀬地区小・中学校音楽祭第一部（合唱）でも金賞を獲得し、県大会進出です。そして臨んだ県大会は、８月３０日（木）福島市音楽堂で行われました。私も生徒たちと一緒に観客席で成績発表を待ちました。全員が両手を額の前で組み、前の座席の背もたれに押しつけて祈っています。しかし、金賞を獲得しながら無情にも東北大会出場はなりませんでした。

落ち込んでいる暇もなく、週末に会津風雅堂で開催される福島県合唱コンクールに挑みます。９月１日（土）は同声の部に、翌２日（日）は混声の部への出場です。２日間足を運び、混声の部で「PRELUDE AGNUS DEI:Phoenix」を聞いていて、非常に懐かしい思いにとらわれるのと同時にすごく温かい何かに包まれているような気持ちに浸ってしまいました。歌っている生徒たちの思いが私の心に届いたのだと思いました。上位大会への進出がかなう、かなわない以前に、大きな喜びが私の心を占めていました。会場の外で生徒が出てくるのを待つ保護者の皆さんも、出てきた生徒も先生も、そのような表情に見えました。そして、夕方電話で、同声、混声ともに金賞と東北大会出場の報告を受けたのでした。

吹奏楽部も果敢に挑戦　大会を経て演奏が充実

昨年度の成長を土台にして、難易度の高いオーケストラの曲目にあえて挑戦したのだと生徒は言います。

９月２日（日）、吹奏楽部は、喜多方プラザで行われたＴＢＣ・ＴＵＦこども音楽コンクール（写真も）に、東北大会出場をかけてこれまで以上の決意を秘めて参加したはずです。挑戦した曲は「パガニーニの主題による狂詩曲」（Ｓ．ラフマニノフ作曲）。私がコンクールで聞くのは２回目ですが、１回目よりも確実に演奏が安定してきて、私には別な曲かと錯覚するくらい印象も変わって聞こえました。結果は、優秀賞をとりながら、ここでは東北大会出場を逃してしまいました。

これに先立って行われた福島県吹奏楽コンクール県南支部大会では、見事に金賞を射止め、県大会出場を果たしています。次いで７月２７日（金）に いわきアリオスで行われた県大会では、（あえて「残念ながら」と言わせてもらいますが、）銅賞で、東北大会を逃しています。しかし、県南支部大会の演奏終了後、私が声をかけた生徒は課題を口にしていました。それを意識して練習してきたことが、喜多方プラザの演奏では十分にうかがえました。また、顧問の石井教諭も今後の課題を明確につかんでいるようです。次は、９月２１日（金）に行われる岩瀬地区小・中学校音楽祭第２部（合奏）です。課題の克服に「師弟一如」で努力を重ね、地区大会、さらに県大会突破を果たしてくれるものと期待しています。

「納得」を目指して無心で挑戦
創作の部で県大会６位入賞

岩瀬地区の英語弁論大会は、８月２９日（水）、須賀川市文化センター小ホールで行われ、地区内の１３校から暗唱の部に２１名、創作の部に１３名が参加し、日ごろの英語学習の成果を競い合いました。本校からは、暗唱の部に長谷川愛彩さん（３年）と北村橙椰くん（１年）、創作の部に鴻野　歩さん（３年）が出場しました。

昨年、暗唱の部で優勝した鴻野さんは、今年は創作の部で優勝を飾り、９月７日（金）に矢吹町文化センターで行われた福島県下中学生英語弁論大会でも６位入賞を果たしました。

地区大会では、長谷川さんも６位に入賞しました。審査員の方が「１年生もレベルが高かった。」とおっしゃっていましたが、北村君のスピーチもすごくいい出来で、私が「来年、再来年の二中のエースだ」と言ったら、周りの校長先生もうなづいていたくらいです。

いずれにしても、鴻野さんが代表して「自分で納得のいくスピーチをしてきます。」と言ってくれましたが、３人ともそれを目指したことが伝わってくるパフォーマンスであったことを何よりうれしく思います。

少年の主張大会で桐生さん優秀賞

８月１日（水）、市の文化センターで須賀川市青少年健全育成推進大会が開催され、そこで行われた少年の主張大会で、３年生の桐生実和さんが、「年を取り合って」という題で意見を発表し、優秀賞に輝きました。

桐生さんの家には、おじいさんが掲げたこんな色紙があると言います。

> 子供笑うな来た道だもの。年寄り笑うな行く道だもの。来た道行く道二人旅。これから通る今日の道。通り直しのできぬ道。

桐生さんは、これを「十代から八十代までの価値観の違う幅広い世代がそろう我が家で、『お互いを思いやって暮らしていこう。』という祖父の願いが込められて」いると理解しています。そして、小さないとこや老いて体力が衰え始めた祖父に対する自分の感情の変化を見つめます。

そのうえで、「来た道行く道二人旅」を自分の大切な心掛けだと意識し、主張をこう結んでいます。

まずは、自分から、そして家族、身近な人へつなげていきたいと思います。子供だった頃は、誰でも支えてもらって生きてきた。だから、今は「自分が幼い子供や高齢者を支える番だ。」ということを忘れてはいけないのです。これからは、皆で手を取り合って「通り直しのできぬ道」を精一杯歩こうと思います。

私も色紙の言葉を大切な心掛けにしたいと思います。

小・中合同では２年目・花火大会翌日の清掃

まずは、左の写真をご覧ください。これは、探検隊でも発掘調査隊でもありません。釈迦堂川全国花火大会（８月２５日）後の、恒例になった清掃ボランティア活動の様子です。

前日の花火を楽しんだ生徒も花火を見なかった生徒も、早朝６時に学校を出発して会場周辺のゴミ拾いを行いました。花火の残骸やお客さんの片づけきれなかったゴミだけでなく、「こりゃ、花火大会前からのゴミだな。」などと言いながら、「年代物」のゴミまで、目に留まれば残さず片付けました。私たちよりも前に、市役所の職員さんや大勢の市民の方々がボランティア活動を行っているところに入っていくことで、楽しく華やかな行事も、大勢の裏方さんに支えられているのだということも理解できたのではないかと思います。

須二小、阿武隈小、柏城小の３校と合同で行うようになって、今年は２年目。参加者は、本校生徒が１４５名、総勢２３３名でした。終わった後は、そのまま帰るのではなく、部活動の練習を待ったり、練習試合に移動したりした生徒もいて、いっそう感心させられました。

この学校だよりは、本校 HP からもご覧いただけます。